様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年５月１１日現在

機関番号：１２５０１
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2009～2011
課題番号：２１５９２６８２
研究課題名（和文）　看護系大学３年次編入学における教育プログラムの開発

研究課題名（英文）　Developing the educational program for the third-year transfer students of a nursing college

研究代表者
斉藤　しのぶ（SAITO　SHINOBU）
千葉大学・大学院看護学研究科・講師
研究者番号：90292680

研究成果の概要（和文）：本研究は、看護系大学３年次編入生への看護学修得に向けた教育プログラムの開発を目的とする。編入生独自に展開されるプログラムの中で、編入生の看護学修得上の学習課題を明らかにし、看護学修得の効率化を図る指導について検討した。この結果を踏まえ意図的に教育プログラムを展開することにより、自らの現状を真摯に受け入れ、課題を自覚することを通して看護学修得への畏敬の念を個々が認識し、看護学の探究心の発露につながることが分かった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this present study is to develop the educational program for the third-year transfer students of a nursing collage when they learn nursing science. We clarified the learning problems facing transfer students when they learn nursing science in the current educational program developed independently for them, and examined the educational guidance to improve the efficiency of learning nursing science. We came to realize that they would sincerely accept the status quo of their own when we intentionally developed the educational program based on the above results and that each of them would feel the sense of awe towards learning nursing science through realizing their challenges, which would lead to the manifestation of spirit of inquiry into nursing science.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	1,300,000	390,000	1,690,000
２０１０年度	800,000	240,000	1,040,000
２０１１年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総　計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：看護学
科研費の分科・細目：基礎看護学

キーワード：編入学生・看護学・教育プログラム

１．研究開始当初の背景

看護系大学の編入制度は、医療の高度化に伴い、看護分野における専門家の育成、資質の向上を図ることを目的に導入されたものである。本研究開始時（平成 21 年）の看護系大学数は 167 校あり、そのうち３年次編入学（以下編入学）制度を実施している大学は 52 校あり、短期大学・専修学校の卒業生が看護学の学士教育を受けるための場とされている。看護教育が４年制大学化される時代の趨勢において、現在も学士の取得を希望する編入生は後を絶たない。編入生は、医療の高度化、複雑化が進み、質の高い看護学教育が求められる現況において看護学教育に携わる可能性を持つ人材として貴重な存在である。つまり、編入生に対して、将来の看護・看護教育を担う人材として教育がなされるべきである。しかしながら、学士課程において編入生は、学士課程修了要件に不足している単位を既修得単位で補填する形で履修していたり、保健師の国家試験受験資格を取得するための単位取得という履修状況もある。このような状況の中で、編入生の学習ニードに応えることの限界があるという報告もある。このような状況では編入生に対する教育内容の検討が十分とは言えず、貴重な人材に対して効果的な教育が実施されているか疑問を持った。また編入生らは、様々な背景を持つため、看護学の修得という観点からの学習課題は多岐に渡り特有の配慮を必要とする。教員は編入生の多様性に対し、個々の課題を見定めつつ、効率的な教育方法の検討が求められると考えた。そこで、本研究は看護実践の質の向上ならびに看護学の発展に主体的に貢献できる人材としての育成に向けての編入学教育については十分に検討がなされていないと判断し、編入学生への教育プログラムを開発することとした。

２．研究の目的

看護系大学３年次編入学における教育プログラムを開発する

３．研究の方法

（１）学士課程入学時における編入生の抱える看護学修得上の学習課題の分析

①研究者らが所属する看護系大学に編入学してきた編入生を対象に、編入学直後に開講される看護専門科目の授業で自己の看護実践レポートを提出してもらう。

②レポートの記述から、事例、事例に対する看護者の認識、看護過程を振り返る認識を示す記述に着目し、分析素材を作成した。

③看護学の修得という観点から、学生各々の看護実践を導く認識の特徴を明らかにした。

④編入生個々の看護実践を導く認識の特徴の共通性・相異性を比較検討し、看護学の修得上の課題を明らかにした。

（２）編入生が自覚する学習過程の分析

①レポートを熟読し、看護学の修得に関連していると思われる記述に着目し、どのような学習が必要であると自覚しているかを明らかにした。

②学習が進んだ年度末に半構成面接を行い、編入生が自己の看護学修得上の課題をどのように自覚しているか語ってもらい、自覚する学習課題を明らかにした。

③対象者全員の個別分析結果を看護学の修得の観点から俯瞰し、共通性・相異性を踏まえて抽象化し編入生が自覚する学習課題を明らかにした。

（３）編入生の看護学の修得を目指した教育プログラムの実施

①（１）（２）の研究結果を踏まえ、編入生が抱える学習課題を克服するための指導を展開する。

②プログラム実施後、編入生の看護学修得における個々の課題が自覚され、次なる課題を明確化されているかどうかの観点で評価した。

（４）全国の看護系大学において３年次編入制度を実施している大学に、教育課程の実態と課題についてアンケートを作成し、郵送調査を行った。

（５）教育プログラムの実施結果の評価と再検討

教育プログラムに基づいて学習を積み重ねた結果、編入生の学習状況と教育体制の両側面から評価し、改善すべき点を明らかにした。その結果から、プログラム内容を再検討した。

４．研究成果

（１）学士課程入学時における編入生の抱える看護学修得上の学習課題

分析の結果以下の４つの課題が明らかとなった。

①医療現場の条件を自身の看護実践の限界と見做し、直面した問題に解決の方向性を見出すことができずにいる。

②自己の経験を根拠として実践するため、とりうる選択肢の幅が限定されている。

③不全感やジレンマなど経験によって生じた感情があるが故に、自己の看護過程を対象化することが困難である。

④看護過程の評価の際に、患者の自尊感情や病気の受容といった心理的側面が重要視され、看護一般の規準が適用されない。

以上の４点から、看護理論の学習、看護の中核概念となる人間観、看護観に関する知識の獲得が必要であること、実践において生じた感情の揺らぎは、乗り越えることによる発展可能性を見据え、感情に配慮しつつ、違う視

点での捉え方の違いを知り、客観的な立場に立つことを促すことが必要であることが示唆された。

（２）編入生が自覚する学習過程の分析

①授業における演習直後に自覚する学習課題

＜看護実践者として実践をより良くするための専門知識の獲得＞

＜自己の看護実践の対象化＞

＜自己の認識活動、演習の過程を他者にわかりやすく伝えること＞

＜セルフケアなど抽象概念の説明範囲の認識＞

＜経験則を根拠にする看護実践＞

＜学習プロセスの評価＞

＜人生においてありたい自己に向かうために必要な知識の獲得＞

②年度末（3 年次生修了時）に自覚する学習課題

＜より良い看護実践のために必要な専門知識の獲得＞

＜科学的なエビデンスに基づく思考過程の修得＞

＜学習態度における能動性＞

＜看護実践における対象把握の視点＞

＜リーダーシップ＞

＜保健師免許取得に向けた専門知識の獲得＞

＜自己評価の方法＞

以上から演習を通して看護実践者としての課題を自覚することを経て、履修が進むにつれ科学的な根拠を据える思考の修得、自己評価することの必要性を意識化されていることが明らかとなった。

（３）看護学の修得を目指した教育プログラムの実施および評価

①教育プログラムの実施

学習目的：自己の実践体験に基づいて看護学の取得段階の実際を見定め、授業での学びを基盤として自己の学習課題を明らかにする。

演習方法：自己の看護実践の記述、看護過程の傾向を踏まえ、看護過程を分析するにふさわしい看護の基本的概念や理論的枠組みを見出すための視点を検討し、文献検索。グループワークを通して、実践の構造をなす要素の有無を点検して看護過程の特徴を確認する。その後、実践の発展可能性を検討する。教員は１グループ（学生５名）に対して１～２名配置。ファシリテーターとして参加する。グループワークの内容を他者にプレゼンする。

②プログラムの評価

編入生は、個々の看護実践を導く認識を自己評価し、看護学修得上の学習課題を個々に学生なりのレベルで自覚していた。特に自己の実践を振り返り、看護の発展可能性を探るという作業は、看護実践を対象化し、真摯にその意味を受けとめ、看護学の中に位置づけるということが必要であり、学生の学習上の認識の発展を促すものとなっていたと言える。

一方、うまくいかなかった実践に対する感情の揺らぎや自己肯定できないあり様も認められ、この場合認識の発展は乏しいということが明らかであった。教員はファシリテーターをしながら、感情の揺らぎに沿いつつ、客観視できるよう促すという役割を果たす必要性があることが明らかとなった。

また、看護学の修得の困難さを体験しつつも、それを乗り越えて未知なる真理をつかみ得たり、乗り越えようとする中での体験が更なる探求の発露となり、大学院進学という進路に進む学生もいた。

（４）全国の看護系大学における編入生を対象とした教育の実態

2011年３月現在看護系大学198校中３年次編入制度を実施している大学は110校であった。郵送調査の有効回答数は 29 校（回答率26.3%）であった。編入制度実施の背景には、地域の看護職者への生涯教育の場の提供が最も多く、そのほかに県立の保健師養成機関として設立、受験者数の確保など大学の高等教育としての目的以外に大学経営や教育の運営が目的化されていることが分かった。

このうち編入生独自のプログラムを展開している大学はわずかに１校であった。また、定員数を減少、編入制度の廃止を予定・検討している大学も計９校あり、編入生への教育の存続意義を問いなおしていることが分かった。この理由としては、学士を持たずとも大学院進学が可能になったこと、編入生のカリキュラム運営上の諸々の問題が多数あげられていた。

各大学の諸事情がある中で、編入生への教育の目的が看護学修得に重点が置かれていない現状が示唆された。

（５）教育プログラム実施結果の評価と再検討

平成 23 年度は、研究者らにより看護学修得を意図とした編入生への教育プログラムを展開した。その結果、学生個々に自己の看護実践を自己評価し、看護学修得に向けた課

題を見出すことを可能にすることが分かった。個々の学生の変化を踏まえて看護学の修得に必要なことは、自らの現状を真摯に受け入れ、看護学修得に必要な知識や能力を持っていないということを自覚し、持っていないからこそ身につけようとする開かれた姿勢を持つこと、これが看護学修得への畏敬の念として個々の認識において形成されることであることが示唆された。

教育プログラムの評価・再検討については更なる分析を重ね、今後看護学修得へ向けた教育の本質を追究すべく研鑽を重ねていく必要があると考えている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

①斉藤しのぶ、椿祥子、和住淑子、３年次編入学生の学士課程入学時における看護学修得上の特徴を踏まえた教育内容の検討、千葉看護学会誌、査読有、17 巻、2011、39－45、DOI：ISSN　1344－8846

〔学会発表〕（計３件）

①Shinobu　Saito、Yoshiko　Wazumi、Fusako Kawabe、Toshie　Yamamoto、The development of a framework to determine the effectiveness of utilizing simulated patients when teaching fundamental nursing kills、14th East Forum of Nursing Scholars 、 2011.2.11 、 Seoul Olympic Parktel(KOREA)

②斉藤しのぶ、和住淑子、看護系大学３年次編入生が自覚する学習課題、日本看護学教育学会第 20 回学術集会、平成 22 年８月１日、大阪国際会議場

③斉藤しのぶ、和住淑子、３年次編入学生の学士課程入学時における看護学修得上の学習課題、日本看護学教育学会第 19 回学術集会、平成 21 年９月 20 日、日本赤十字北海道看護大学

６．研究組織

(1)研究代表者

斉藤　しのぶ（SAITO　SHINOBU）

千葉大学・大学院看護学研究科・講師

研究者番号：90292680

(2)研究分担者

和住　淑子（WAZUMI　YOSHIKO）

千葉大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：802824581

河部　房子（KAWABE　FUSAKO）

千葉大学・大学院看護学研究科・特任准教授

研究者番号：00251843

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：

(4) 研究協力者

椿　祥子（TSUBAKI　SACHIKO）

千葉大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：10604861